

競 技 上 の 注 意

1 本大会は令和7年度（公財）日本バドミントン協会競技規則及び公認審判員規程に準じ、本大会運営規程により行う。

2 タイムテーブルについて

- (1) 試合は、試合番号優先で進行する。
- (2) ゲーム進行上、タイムテーブルとコート・時間が変わる場合があるため、館内放送に注意する。
- (3) タイムテーブルの試合開始予定時間は試合開始の時刻であり、練習時間等は含まないため、予定時間よりも早くコールすることがある。
- (4) 原則として、団体戦は、2コート同時に開いて行う。1コートでも空いた場合は、引き続き第2ダブルスを入れ、試合終了後、次の試合を入れる。
- (5) 個人戦のコールは、**1日目は12時00分、2日目10時00分開始とし**、それ以前にコールは行わない。

3 オーダーについて

- (1) 一回戦は、タイムテーブル開始予定時刻20分前までにオーダー用紙をオーダー交換所に提出し、交換しなければならない。今大会は、そろったところからの交換とする。
(ただし、一日目**9:00**からの試合の団体戦については、当日**8:20**にオーダー交換を行う)
二回戦以降は館内放送に従い、速やかにオーダー用紙を提出・交換する（基本的には試合開始予定時刻**20分前**に行う）。また、二日目のオーダー交換開始時刻を**8:20**とする。
- (2) 複・単・複の順番で試合をし、初戦のみ全試合行う。全試合ともオーダー用紙提出後の変更を認めない。
- (3) オーダーの提出については原則として該当チームの監督が行うが、監督が試合中で提出できないときは、コーチまたはマネージャーが行うことができる。（生徒がマネージャーの場合はできない。）

4 サイド

- (1) 団体戦では、ベンチ、コーチングシートをバックバウンダリーライン側に設ける。
 - ①監督は、ベンチかコーチングシートのどちらかに必ず入ること（男女兼任の場合もう一方が試合中の場合はこの限りではない）。
 - ②ベンチへは、監督1名、マネージャーまたはコーチ1名と選手7名の計9名以内が入ることができる。
 - ③コーチングシートへは、監督、マネージャーまたはコーチが入ることができる。
 - ④団体戦のベンチは、組み合わせの若番のチームが主審から見て左側のベンチに入る。
- (2) 個人戦では、コーチングシートをバックバウンダリーライン側に設ける（団体戦用のベンチが残っている場合は使用しない）。
 - ①監督は必ずコーチングシートに入ること。
 - ②マネージャーまたはコーチ1名もコーチングシートに入ることができる。
 - ③チームが複数コートでしている場合は監督、マネージャーまたはコーチの順で入ることができる。
 - ④個人戦においても組み合わせの若番の選手が主審から見て左側のエンズに入る。
- (3) コーチングシートは、選手がチェンジエンズした際に交代する。（アドバイスはチェンジエンズ後）

5 ゲーム中（インプレー以外時）のアドバイスについて

- (1) アドバイスはコーチングシートからのみとする。
- (2) 試合の遅延行為にならないようにする。また相手選手が萎縮するようなアドバイスであってはならない。
- (3) **アドバイス**
 - ①団体戦では、**コーチングシートまたはベンチに入っている者2名までコートサイドに行ける。**
 - ②個人戦では、**コーチングシートに入っている者2名とする。**
 - ③**2コート以上で同一校の選手が試合を行う場合は、監督、コーチはインプレー時以外、コートを離れて、アドバイスに行くことができる。**

6 インターバル

- (1) 全てのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。
- (2) 第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。
- (3) 団体戦、個人戦ともに連続試合になる場合は、10分間のインターバルをとることとする。但し、団体戦と個人戦の切り替わる場合は、当該選手のみ適用する。

7 シャトル

- (1) シャトルは、本部で渡されたシャトルを使用する。
- (2) シャトルを渡されたら、試し打ちはなし。すぐに試合を開始する。

8 水分補給等

競技中の汗拭き、水分の補給については、主審の許可を得て行い、ゲームの遅延にならないようにする。
水分補給用容器はスクイズボトル(ワンタッチ式水筒)を使用する。

9 公式練習時間

- (1) 団体戦は、マッチの前に2分ずつ行う。シングルスは、対戦相手と練習する。
- (2) 個人戦は、あいさつの後に2分間同時に行う。シングルスの場合、対戦相手と練習する。
(練習パートナー不可)。
- (3) マッチ前の公式練習は必ず行う。

10 試合態度

- (1) プレーを故意に遅らせたり中断したりすることをしてはならない。
○くつひもの結び直し ○眼鏡を拭く ○構えない
○サーブをなかなか打たない ○汗拭きのために勝手にコートを出る 等
- (2) 見苦しい服装、無礼な態度や言動、耳障りな掛け声や叫び声などもしてはならない。
- (3) 審判に対しての質問は認められるが、抗議はできない。但し、質問できるのは団体戦において当該選手及び監督、個人戦においては当該選手のみとする。
※(1)~(3)の行為が見られた場合は、警告後フォルトをとる。度重なる場合は失格となる場合もある。
- (4) 上衣はあいさつの時やインターバル後は下衣の中に入れること。(ユニフォームの形状で上衣を中に入れられないものもあるが、できるだけ入れておくこと)。
- (5) タオル生地のリスト・ヘアバンドは認めるが汗止めのアンダーラップやネックレス・ブレスレッド・医療用でないサポーターなどは認めない。

11 サービスジャッジ

準決勝以降監督(複数で試合をしている場合はコーチ、またはマネージャー)からの要請があり、主審及び競技役員長がその必要性を認めた場合、サービスジャッジをつけることができる。

12 その他

- (1) サービス高を1.15mに固定するルールを判定するために支柱に1.15mのテープを巻く。
- (2) 大会使用ウェア(インナーウェアも含む)は、(公財)日本バドミントン協会審査合格品とする。(広告にあたるものは不可)
- (3) ゼッケンは四隅の4カ所を留めること。もし、背面プリントのあるウェアを使用する場合は、ゼッケン等で完全にかくれるようにすること。
- (4) 会場内に入場する監督、マネージャー、コーチ、選手は、必ずIDカードをつけること。
- (5) 監督、コーチ、マネージャーはベンチやコーチングシートに入る場合、競技用シューズや体育館シューズを履くこと。また、監督、コーチの服装は、試合にふさわしい服装とし長ズボンまたはスカート、襟付きシャツ・検定ウェアとする。(広告にあたるものは不可)生徒マネージャーは、短・ハーフパンツでも可。
- (6) 病気やけがの場合は、本人の意思を確認する。その際、救護係が応急措置を行うこともある。ゲーム続行の場合は、遅延行為にならないようにゲームを進行する。
- (7) コートに持ち込めるもの
 - ① かごに持ち込めるもの(主審に許可をもらいながら使える道具として考えてよい)
・ラケット ・シャトル ・スクイズボトル(ワンタッチ水筒可) ・タオル ・滑り止め
 - ② ベンチ・コーチングシートに持ち込めるもの
 - 1) トーナメントバック(着替え類、タオル、ラケット)
会場のスペースの都合上、コートに入らない選手の道具は椅子の下に置くこと。
 - 2) 60秒、120秒インターバル時に、ベンチからコートサイドに持ち込めるもの
・氷のう(使用の仕方注意) ・コールドスプレー ・濡れタオル 等
・うちわ(応援道具としては不可)
・クーラーバックまたはクーラーボックス(ソフトタイプ)
* 注意事項 1) A4サイズぐらいのコンパクトなもので一つまでとする
2) 底に水をためないこと。床に水滴をたらさないことに注意し、垂らしたら速やかにふきとるようにすること
 - ③ ベンチ・コーチングシートに持ち込めないもの
・モバイル通信機器(iPad、携帯電話等) ・大きなクーラーボックス ・通信機能付き腕時計の持ち込みはみとめるが、使用は禁止する。

(8) 応援・横断幕について

- ① 応援については、鳴り物、団扇等使用せず、拍手・声援のみで行う。試合の妨げになるような応援は禁止とする。
- ② 横断幕については個人名、企業名、広告になる物は不可とし、プレーの妨げにならない場所(コートサイド等)に掲示する。ただし、体育館内の方角表や非常口案内灯にはかからないようにすること。
- ③ 白基調の横断幕は、試合進行の妨げになるので避けること(コートサイド側は可)。千羽鶴は可

(9) 写真・ビデオ撮影について

- ① 会場のコンセンタの使用はしない。フラッシュを用いての撮影は禁止とする。
- ② 大会の様子を保護者や関係者が記録撮影することは構わないが、公的な場所やウェブサイト上で上映や公開をする場合には肖像権の関係上、映っている選手と保護者の同意を得ること。